

第3回「全国栄養経営士のつどい」in札幌 2018年3月24日(土)開催決定!

◆北海道支部長からのメッセージ◆



**患者のために
何をすべきか
多職種で熱い
ディスカッションを!**

医療法人社団佳生会
こだま在宅内科緩和ケアクリニック理事長・院長
児玉 佳之氏

第3回「全国栄養経営士のつどい」では、これからの時代において「患者さんのために、栄養経営士の皆さんが何をしたいかなければならないのか」について多職種で考えてみたいと思います。

2018年は診療報酬・介護報酬同時改定がありますので、将来のためにこの新たな変化をまっしかり把握する必要があります。

また、国は「病院から在宅へ」という大号令の下に、在宅医療の推進に取り組んでいます。今後、多くの栄養経営士が活動する場も、病院から在宅へ移行していくことが予想されます。その中で何が求められていて、どのようなスキルが必要なのか? また、活動の場は今どうなっていて、今後どのような変革が必要なのか? 実際に管理栄養士が在宅の場で経営の面からも活躍するためには、まだまだ考えなければならないことがたくさんあります。

ぜひ、栄養経営士の皆さんと札幌で熱いディスカッションができればと考えております。

多くの方の参加を、お待ちしております!

全国の栄養経営士が一堂に会する年に一度のイベント「全国栄養経営士のつどい」の第3回大会を、2018年3月24日(土)、札幌のACU-A(アスティ45)で開催することが決まりました。

2016年から始まった本大会。第1回は東京で、第2回は福岡で行われ、全国から多くの栄養経営士が参加する恒例のイベントとなつていく。

第2回の福岡大会では、医療法人理事長や在宅医療の専門家が登壇し、栄養経営士に寄せる期待などを語った。また、福岡大会で初めて行われた栄養経営士による実践報告では、エントリーした4人の栄養経営士が一人ずつ登壇し日頃の活動を報告。その後、会場

からの質問に答える形でパネルディスカッションとなった。報告内容を業務改善の参考にしたという想いの現れか、参加者から具体的な質問が数多くあった。

栄養経営士の活躍の場は地域へ! 新たな取り組みを一緒に考えよう

第3回の大会テーマは、「栄養経営で地域をつなぐ」栄養経営士を栄養面で継続的に支えていく取り組みが求められるようになってきている。そのためにはどのような視点を持つべきか、また活動の場を地域に広げるための具体的な方策について、共に考えていける場にする予定である。

福岡大会に続き、札幌大会でも栄養経営士の実践報告を予定している。栄養経営士の皆さんにはぜひ、実践発表へのエントリーもご検討いただきたい。

大会テーマ

栄養経営で地域をつなぐ 栄養経営士に求められる新たな役割

大会詳細や実践報告エントリーについては、決定次第、当協会ホームページにて順次公開していくほか、会員向けメールマガジン等でも情報を提供していくのでお楽しみに!

日本医療企画から雑誌お得キャンペーンのお知らせ

問題解決の糸口がわかる! アウトカムにつながる!!

「ヘルスケア・レストラン」&「栄養経営エキスパート」

2誌連動「特集」がスタート!
セットでより濃密な情報をご提供します!

今年4月号から、読者参加型実践マガジンとしてリニューアルした「ヘルスケア・レストラン」。「日々の問題解決の糸口になる」という声をいただく一方、「もっと詳しい臨床面の情報がほしい」「アウトカムにつなげるための具体的な実践方法を知りたい」というご意見も寄せられました。そこで、栄養経営士のためのスキルアップ情報誌「栄養経営エキスパート」の特集と連動させ、問題解決の糸口からアウトカムまで、一貫した情報提供を行います。

◆2誌連動特集テーマ(予定)◆

- 「ヘルスケア・レストラン」2月号(2018年1月19日発行)：糖質時代の栄養指導
- 「ヘルスケア・レストラン」3月号(2018年2月20日発行)：高齢者のたんぱく質摂取をどう指導する?
- 「栄養経営エキスパート」3・4月号(2018年2月8日発行)：栄養管理のPFCマネジメント
- 「ヘルスケア・レストラン」4月号(2018年3月20日発行)：炎症コントロールの栄養管理
- 「ヘルスケア・レストラン」5月号(2018年4月20日発行)：自力排便をめざす高繊維食
- 「栄養経営エキスパート」5・6月号(2018年4月6日発行)：消化管障害と炎症コントロールのための栄養管理の実践

※内容は予告なく変更となる場合があります。

「ヘルスケア・レストラン」&「栄養経営エキスパート」
期間限定セット価格*お得キャンペーン
「ヘルスケア・レストラン」2017年11月号+
「栄養経営エキスパート」2018年1・2月号をセットで
670円お得な2,138円(本体1,980円+税)
※2017年12月から半年間の限定価格

くわしくは [JMPオンラインブックストア](#)

検索

現場で活躍する栄養経営士たち

意を決して臨む
マネジメントという新たなステージ

日本栄養経営実践協会代表理事の宮澤靖氏が部長を務める近森病院臨床栄養部。内山里美さんは、宮澤氏が近森病院に入職しNSTを発足させた翌年、入職した。現在いる臨床栄養部のスタッフの中で、その黎明期から現在までの変遷を経験している数少ない1人だ。10年以上、臨床栄養部を支えてきた内山さんは今、科長として組織を背負う立場となった。周囲の応援を受けながら、管理職としての一歩を踏み出した内山さんの活動を追う。

改革期の激動の中で
サポート役に徹した

「当初、自分が科長の職に就くことで、前任の方々がつくりあげてきたこの臨床栄養部を壊してしまうんじゃないかという不安やプレッシャーは非常に感じました」

2016年11月から

臨床栄養部の科長を務める内山里美さんはこのように話す。近森病院の臨床栄養部の管理職に就くということは、相応の覚悟が求められる。管理栄養士24人が所属するという組織自体の大きさ



10年先の付き合いとなる内山里美さんと宮澤氏。2人の様子からはお互いへの高い信頼がうかがえる

はもちろん、その知名度や注目度の高さを考えれば、プレッシャーの強さは想像を超えるものがあるだろう。

内山さんが近森病院に入職したのは、宮澤靖氏が同院にやってきてNSTを発足させた翌年の2004年だった。それから10年以上にわたり臨床栄養部と歩みを共にしてきた。内山さんは同院にきてまず、管理栄養士がNSTの中心となって活動していることに驚いたという。

「管理栄養士が医師から責任を委譲されているという状況に、やりがいと責任の重さを感じました」

「前職場でも自分なりにやっていたつもりでしたが、十分に役割を果たしていたとは言えませんでした。そんな中で当院に入職し、フラットなチーム医療や管理栄養士の病棟常駐、病棟常駐型NSTの考え方を目の当たりにしました。とても衝撃を受け、管理栄養士の責務に対する認識が大きく変わりました」と内山さんは話す。

しっかりと判断基準を持つ
組織管理に適した人材

近森 正幸氏
社会医療法人近森会理事長



管理職というのは、判断基準をどこに置くかというのが最も重要です。その判断基準に基づいて組織全体を管理していくことになりますが、内山さんは自分の中にしっかりと判断基準を持っており、なおかつ間違いがないので、安定した組織管理に適した方だと思います。

管理職としての内山さんの仕事は労務管理が非常に大きいでしょう。実は、労務管理というのは、これまでほとんどの管理栄養士が経験していないことでもあります。労務管理の中には、人材の採用や新人育成の管理も含まれます。一人前の「臨床管理栄養士」を育てるために、臨床とは異なるマネジメントスキルの高さが、管理職には求められるのです。

また、当院の特徴である、それぞれの職種が自立自動しているチーム医療だからこそ生まれる、管理職の役割もあります。医師がすべてを決定するトップダウンではなく、各職種がフラットな関係であるため、他職種とのコミュニケーションギャップはどうしても発生してきます。それをうまく解消し、円滑なチーム医療ができるよう、科長は常に気を配らなければなりません。これは目立たない部分の地道な働きですが、欠かせない点です。内山さんはコミュニケーション能力に長け、非常に人間的なバランスのとれた人ですので、そのあたりはうまくマネジメントしてくれると期待しています。



内山 里美さん
栄養経営士
社会医療法人近森会
近森病院 臨床栄養部科長

「ヘルスケア・レストラン」丸山道生先生連載100回記念セミナー

世界と日本の病院食と栄養管理

QOLをめざした超高齢社会の地域栄養サポート

「ヘルスケア・レストラン」の連載企画である丸山道生先生の「世界の病院食・術後食」が、2018年1月号で100回を迎えることを記念し、講演会を開催します。丸山先生に連載を振り返りながら世界の病院食の特徴や日本の病院食との違い、最新の経腸栄養管理の動向などについてお話しいたします。また、丸山先生と親交の深い菊谷武先生が在宅での経口摂取アプローチの方法を解説。両先生によるトークセッションも実施します。



開催日：2018年2月4日(日) 13:00~16:00(予定)

トークセッション

会場：損保会館 大会議室(東京都千代田区神田淡路町2-9)
JR御茶ノ水駅聖橋口徒歩5分
東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅B2出口徒歩3分
東京メトロ丸の内線淡路町駅A5出口徒歩3分

講演1 世界の病院食と日本の経腸栄養最前線
丸山 道生先生(田無病院院長)

北多摩地区での食支援連携から考える地域包括ケアシステムのなかで求められる管理栄養士の役割

講演2 在宅高齢者の口腔機能評価と経口摂取へのアプローチ
菊谷 武先生(口腔リハビリテーション多摩クリニック院長)

参加費：会員2,000円、その他一般4,000円(税込)
定員：200人 ※定員になり次第、締め切らせていただきます。
主催：「ヘルスケア・レストラン」

【お問い合わせ・お申し込み先】 株式会社日本医療企画 TEL03-3256-2885(担当:平山・原田)



科長に就任したことで病棟に出る機会は減ったが、他職種との円滑なコミュニケーションのために時折、病棟に顔を出すという

臨床栄養部では、チーム体制の下で屋根瓦方式の教育が行われている。複数の主任管理栄養士がそれぞれにチームを持ち、監督

「内山さんのためなら」という言葉は 気配りで築いた信頼の証

12床ある本院の栄養サポートを円滑に実行するためには、十分なスタッフの人数と、一人ひとりの高いスキルが欠かせない。そのため、臨床栄養部は約10年をかけて、病棟常駐型チーム医療の二員として必要な人員の増強と業務整理を実施し、並行して新人教育体制の試行錯誤に取り組み、組織としての形をつくっていった。

その間、内山さんは2007年に主任に就任し、以来、一歩引いて部内のサポート役に徹してきた。

にあたる。チームにはリーダー管理栄養士がおり、主任の指導を受けながら後輩の教育を担う。

一方のチームを監督する主任管理栄養士も、科長や部長から指導を受ける。内山さんが長く務めてきたのはこの主任管理栄養士の役割だ。どちらかといえば若手を積極的

に出し、自身は調整役に回るが多かった。内山さんは言う。自分がもし、臨床栄養部の改革期に科長になっていたら、組織を引っ張っていくことはできなかっただろう、と。

しかし、近森正幸理事長は、内山さんの科長就任について「適切な時期に適切な人材が適切な役割に就いた」と考えている。さまざまなトラブルや困難が

安定期のリーダーとして 果たすべき責務への覚悟

組織の中身は「人」だ。内山さんは常に人と組織を見ている。「私がこれから臨床栄養部をもっと発展させていくためには、マネジメント力を磨く必要が

きものの改革期には強いリーダーシップが求められるが、安定期に入った組織では、バランス感覚の高いリーダーこそがふさわしいからだ。

その点、内山さんはまさに「バランスのよい人」だと、近森理事長をはじめ院内の他職種も口を揃える。長く主任として部長や科長をサポートしつつ、部下の新人指導にも目を配ってきた内山さんは、組織全体を俯瞰で捉え、人や物事のバランスをとる力に長けているのだろう。チーム医療での他職種との良好な関係性も、気配りに長けた内山さんの力によるところが大きい。

「内山さんのためならどんな頼まれごとでも引き受けますよ」——そんな言葉が自然と他職種からあがってくる。

あります。その中でも、人を見る目は重要だと思っています。新しい人材の確保という意味でも、また、その人の性格や能力を見極めて、その人の成長にとって最

他職種の声



前田 秀博氏
近森病院
リハビリテーション部副部長

リハビリテーションでは運動・食事・休養という3つの生活要素のバランスが非常に重要ですから、セラピストと管理栄養士の方とのコラボレーションに関しても、常に意識しています。また、必ずしも順調に回復する患者さんばかりではないので、その都度、患者さんの状態に見合った対応が求められます。その意味でも管理栄養士の方との密なコミュニケーションは欠かせません。

内山さんのもとで、若手の方がのびのびと成長されていると傍目からも感じています。今後も栄養とリハで協働して患者さんの早期回復と一緒にめざしたいと思っています。



筒井 由佳氏
近森病院
薬剤部部長

栄養と薬は関係が強く、栄養状態が悪ければ免疫能が落ちて感染症に罹患し、アルブミン製剤や抗菌薬の投与にも発展します。栄養と薬、どちらか一方がうまくいかなくても患者さんをよくすることはできないので、毎日の業務の中で細かな情報共有を行っています。

内山さんとは同じ病棟で患者さんを診ていた時期もありますが、その時から気配りができ、周りをよく見ている方という印象は変わりませんね。内山さんが臨床栄養部を引っ張っていかれるのは、とてもよいことだと思います。私だけでなく、ほかの職種でも「内山さんのためなら」と動かれる人はたくさんいるのではないのでしょうか。

日本医療企画から新刊のご案内

国民の栄養白書2017-2018年版

最期まで自分らしく生きる 命の栄養ケア 介護栄養の時代

目次

- 巻頭特別座談会
在宅で生きる、在宅で食べる
高齢者の生活と「在宅時代」の多職種協働
- 第1部 最期まで口から食べる「経口維持」の取り組み
第1章：経口維持と介護保険
第2章：食べる力と栄養状態
第3章：高栄養食と経口維持
第4章：看取りにおける経口維持の意義
- 第2部 入院しないための「誤嚥性肺炎」予防の取り組み
第1章：誤嚥性肺炎予防につなぐ3つのケア
第2章：栄養ケアと食事の物性
第3章：口腔ケアと咀嚼機能
第4章：肺炎防止の呼吸リハ

- 第3部 転倒予防と「リハ栄養」の取り組み
第1章：骨折と寝たきり予防のリハ栄養
第2章：転倒予防のリハ栄養の実践
第3章：リハ栄養と中鎖脂肪酸の活用
第4章：安静のリスクと自分らしく生きるリスク
- 第4部 排便コントロールと自分らしく生きる尊厳
第1章：排泄ケアと高齢者の尊厳
第2章：オムツゼロを目指す尊厳を守るケア(医療編)
第3章：オムツゼロを目指す尊厳を守るケア(介護編)
第4章：経腸栄養と排便コントロール PHGGの活用

くわしくは 栄養白書

検索



- ◆監修
『ヘルスケア・レストラン』栄養企画委員会
- ◆企画・制作：ヘルスケア総合政策研究所
- B5判並製／186頁
- ISBN978-4-86439-590-8 C3047
- 定価：本体4,000円＋税

第6回「全国医療経営士実践研究大会」広島大会 日本栄養経営実践協会後援

変革期における経営人材の使命とは？
演題発表に医療経営士19人が登壇

11月18日(土)、19日(日)の2日間、第6回「全国医療経営士実践研究大会」広島大会(主催…日本医療経営実践協会、後援…日本栄養経営実践協会、厚生労働省ほか)が、広島YMCA国際文化センター(広島市中区)で開催された。大会テーマは「変革期に求められる医療経営士の使命と課題——現場主導による経営改革と新しい地域づくり」。全国各地から2日間で延べ350人が集まり、大盛況となった。

最初に、主催者挨拶、湯崎英彦・広島県知事らによる来賓挨拶のあと、大会運営委員長の梶原四郎氏(日本医療経営実践協会中国支部支部長、社会医療法人清風会理事長)が挨拶に立ち、「日本には課題が山積している。厳しい状況は『常識』では乗り切れず、変革が必要。変革を恐れず、海の上に神社を

つくった平清盛の非常識さを見習ってほしい」と呼びかけた。基調講演では、広島県病院事業管理者・広島県参与の浅原利正氏が「病院経営改革とグローバルリーダー」をテーマに登壇。グローバルリーダーの条件として、①目指す姿を示す、②謙虚さ(知的謙虚さ)、③あきらめない心——の3つを提示

し、「これらは目標達成に欠かさない要素。経営改革にもつながる」と述べた。続いて、医療経営士1級による特別講演が行われた。登壇した2人のうち社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院包括診療部の園田幸生氏は自身が進めてい

る「包括診療医」の育成について紹介。「地域や日本の医療の未来のために包括的な医療やマネジメントを実践していく医師の育成に力を注いでいきたい」と意気込みを語った。大会のメインプログラムである医療経営士による演題発表には、19人が挑戦した。発表に先立ち審査委員長の吉長成恭氏(県立広島大学大学院経営管理研究科MBA客員教授)は、「経営改善といった経営へのインパクトだけでなく、社会的インパクトのある発表を期待している」とエールを送った。

発表者はテーマごとに4つのセッションに分かれ、2日間にわたって研究・実践活動の成果を報告。審査委員奨励賞3人と中国支部長賞、インパクト賞、リーダーシップ賞、各1人が選出された。この他、大会2日目には、県立広島病院第22代院長の木矢克造氏とハイズ株式会社代表取締役社長の斐英洙氏(はいえいしゅ)による特別対談「新しい地域づくりとこれからの医療機関経営——求められる人材とその使命」が行われ、次回札幌大会の運営委員長を務める田中繁道氏(日本医療経営実践協会北海道支部支部長、医療法人溪仁会理事長)の閉会挨拶で盛況のうちに幕を閉じた。



会場はほぼ満席。医療経営士の熱意を感じる大会となった

演題発表では、セッションごとにディスカッション・質疑応答も行われた。



撮影・廣段武

演題発表では、セッションごとにディスカッション・質疑応答も行われた

日本栄養経営実践協会 情報掲示板

東海支部

日本栄養経営実践協会
東海支部設立記念セミナー
今、なぜ栄養経営なのか？

日本栄養経営実践協会東海支部がいよいよ始動！ 支部設立を記念したセミナーを開催する。セミナーでは、東海支部長に就任した兼平奈々氏(東海学園大学健康栄養学部管理栄養学科准教授)の挨拶、宮澤靖代表理事による講演「今、なぜ栄養経営なのか?」、森茂雄氏(JA愛知厚生連稲沢厚生病院栄養科係長)による講演「人の役に立つ栄養サポートのはじめかた」が行われる。終了後、情報交換の場として懇親会を開催予定。

- 日 時：2018年1月28日(日)13:30～15:50
※終了後、懇親会(16:00～17:50、会費4,000円)開催予定
- 会 場：株式会社日本医療企画中部支社セミナールーム(名古屋市中区)予定
※変更になる場合がございます
- 参加費：日本栄養経営実践協会会員2,000円、一般4,000円
- お問い合わせ：日本栄養経営実践協会東海支部
TEL:052-209-5451(担当:吉野)

セミナー情報

管理栄養士のための
基礎医学講座
～臨床検査Ver.第二弾～

九州女子大学家政学部栄養学科教授(医師)で、わかりやすい講義に定評がある三浦公志郎氏が講師を務め、大人気の基礎医学講座。その「臨床検査Ver.」待望の第2弾開催が決定した。講座では、「臨床検査(数値データ、画像データ、心電図)を読む基礎知識」「血液検査、血液の組成や異常について」「臨床検査医学についての医学的知識と栄養管理」といった管理栄養士が他職種との連携を円滑にするために必要な基礎医学を学び、症例検討も行う。

- 日 時：2018年2月17日(土)10:30～16:30
- 会 場：九州ビル8階 桐の間(福岡市博多区)
- 参加費：栄養経営士及び基礎講習修了者7,000円、一般8,000円
- お問い合わせ：株式会社日本医療企画九州支社
TEL:092-418-2828(担当:白水)

◆お詫びと訂正◆

本紙2017年10月号におきまして、間違いがございました。3面5段目後ろから7～6行目の阿部咲子様のコメントに「栄養マネジメント加算」とありますが、正しくは「栄養改善加算」です。お詫びして訂正いたします。